

カタルーニャ前州首相の働き方改革に暗雲

発表日：2018年1月29日（月）

～在宅勤務は認められず～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

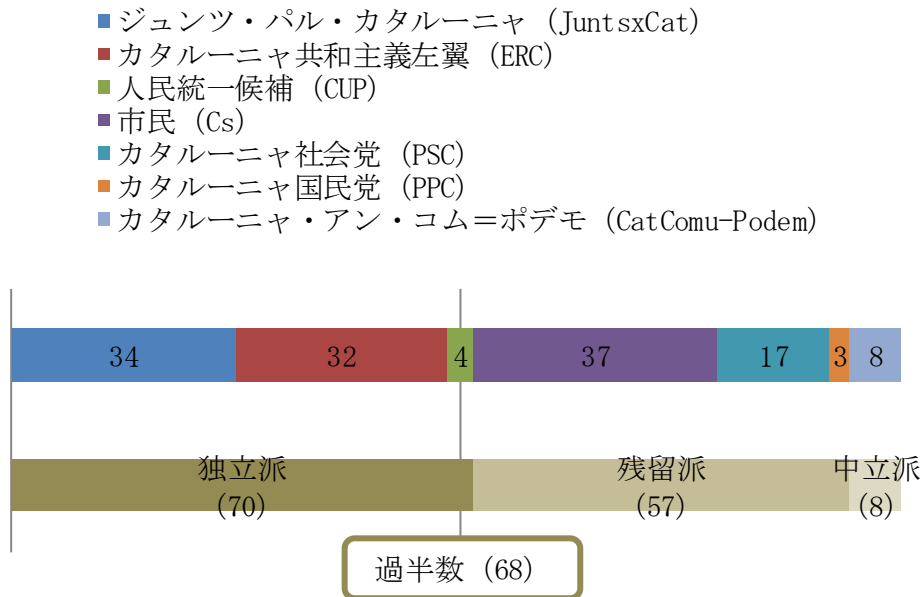
◇ 国外逃亡中のブリュッセルからビデオ会議システムを使ってカタルーニャ州政府を率いようとしたプチデモン前州首相の計画は、スペインの憲法裁判所の判決により難しくなった。同氏が国家反逆罪で逮捕されることを覚悟で30日の州議会に当院するか、同氏に代わる別の州首相候補を擁立するか、独立派の間でも意見が割れている。カタルーニャ新政府発足の行方は引き続き流動的だ。

30日に州首相の選出投票を控えるカタルーニャ州では、国外逃亡中のプチデモン前州首相を再指名するか否かを巡って議会が割れている。昨年12月の州議会選で独立派の3党は議会の過半数を上回る議席を獲得したが、当選した独立派議員のうち3名が違法な住民投票を強行した首謀者として拘留中、5名が国外逃亡中という異例の状況にある（図表1）。17日に召集された新議会での議長選出投票は、拘留中の3名について代理投票が認められた一方で、国外逃亡中の5名については代理投票が認められなかった。残留派の議長候補の票が割れたことで、独立派のトレント氏が賛成多数で新議長に選出された。だが、州首相選出に際しては、30日の初回投票では議会の絶対過半数（68）、2月1日に予定される第2回投票でも不在票や棄権票を除いた単純過半数の支持が必要となる。議長選出投票同様に拘留中の3名に代理投票が認められた場合も、国外逃亡中の5名が投票できない場合、独立派の投票総数は65と国外逃亡中の5名を除いた66の過半数に満たない（図表2）。ただ、国外逃亡中の議員のうち数名は辞意を表明しており、同じ党から繰り上がり当選することで、独立派が議会の過半数票を確保することが見込まれる。

新たに就任する州首相は議会で施政方針演説をすることが法律で求められている。プチデモン前州首相は当初、滞在先のブリュッセルからビデオ会議システムなどを駆使して州政府を率いる意向を明らかにしていた。トレント新議長もプチデモン前州首相が唯一の首相候補であるとして、これを支持する方針を示唆していた。だが、スペインの憲法裁判所は27日、プチデモン氏が再任されるためには施政方針演説時に議場に居合わせる必要がある、同氏が30日に当院するには裁判所の許可が必要である一との法的見解を示した。また、司法手続きを免れて国外逃亡中のプチデモン前州首相が州政府を率いることは出来ないとし、同氏を州首相候補から除外することを求めているスペイン政府の訴えについては、後日、司法判断を下すことを明らかにした。現地メディアによれば、憲法裁判所の判事の間で意見が二分している模様だ。

国外逃亡中のプチデモン前州首相は、スペイン国内に帰国すれば、国家反逆罪の罪で逮捕されることが確実視されている。同氏は州議会出席の許可を裁判所に求める意向を示唆しているが、独立派議員の間でもプチデモン氏に代わる州首相候補を擁立すべきとの声も浮上している。ただ、独立派が別の州首相候補を擁立しても、プチデモン氏やその側近がこうした動きを受け入れない限り、過半数の支持を確保することは出来ない。カタルーニャ新政府発足の行方は引き続き流動的だ。

(図表 1) カタルーニャ州議会の議席分布



出所：カタルーニャ州議会資料より第一生命経済研究所が作成

(図表 2) カタルーニャ州首相選出に必要な投票数

	勾留者や 国外逃亡 者も投票	国外逃亡者 5 名は投票できず (※)			
			中立派が 棄権	強硬独立 派が棄権	国外逃亡 者 1 名が 交代
投票数	135	130	122	126	131
過半数	68	66	62	64	66
独立派 2 党	66	61	61	61	62
独立派 2 党 + 強硬独立派	70	65	65	61	66
離脱派 2 党 + 中立派	74	69	61	69	70
残留派 3 党	57	57	57	57	57
残留派 3 党 + 中立派	65	65	57	65	65

注：緑色は過半数を上回るケース、※勾留者 3 名は代理投票可能と仮定

出所：第一生命経済研究所が作成

以上